



第16回

全国川サミット in 荒川

～川の恵みとその脅威～

報告書



全国川サミット連絡協議会・荒川下流沿川2市8区

戸田市・川口市・板橋区・北区・足立区・荒川区・葛飾区・墨田区・江東区・江戸川区

目次

I 開催概要	1
1 全国川サミットとは	1
2 「全国川サミットin荒川」開催の意義	2
3 開催目的	2
4 テーマ	2
II 実施内容	3
1 全国川サミットに向けた活動	3
(1) 荒川探検隊	3
①上流隊	3
②中流隊	4
③下流隊	4
(2) 江戸川区小中高等学校及び自主研究グループによる調査および研究	5
①大杉小学校	5
②小松川第二小学校	5
③中小岩小学校	5
④小松川第一中学校	5
⑤小松川第三中学校	6
⑥西葛西中学校	6
⑦小松川第二中学校	6
⑧小松川高校	6
⑨江戸川総合人生大学 江戸川学科1期生 ローターズ倶楽部	7
⑩江戸川総合人生大学 国際コミュニティ学科2期生 江戸川ルネサンス	7
⑪小松川第二小学校、大杉小学校、中央大学水理研究室	7
⑫えどがわく荒川市民会議	8
⑬あらかわ学会	8
⑭ア！安全・快適まちづくり	8
2 第16回全国川サミットin荒川	9
(1) 10月26日(金)(第1日目)	9
①荒川治水資料館見学および荒川船上視察	9
②全国川サミット連絡協議会総会	10
③ウェルカムイベント「太鼓そのいのち」	11
(2) 10月27日(土)(第2日目)	12
①午前の部(小ホール)	12
②午後の部(大ホール)	14
③共同宣言	15
④展示等	15
(3) 10月28日(日)(第3日目)	17
全国川サミットin荒川 記念植樹式	17
III 効果等	17
(添付資料)	18

I 開催概要

1 全国川サミットとは

一級河川の名を名称にする市区町村や、一級河川にゆかりのある市区町村が、年に1回 全国から集い、川にまつわるイベントをおこない、川について考えとともに、川の素晴らしさを全国に向けて発信していく大会である。

この全国川サミットは、平成4年に富山県庄川町(現砺波市)からはじまり、16回目を迎える今回は、単独自治体でなく、流域複数の自治体による初めての開催となった。

【参加8自治体】

秋田県横手市、群馬県みなかみ町、岐阜県揖斐川町、岐阜県白川町、
兵庫県加古川市、兵庫県猪名川町、奈良県十津川村、東京都荒川区

【主催自治体】

全国川サミット連絡協議会、荒川下流沿川2市8区

埼玉県戸田市、埼玉県川口市、東京都板橋区、東京都北区、東京都足立区、
東京都荒川区、東京都葛飾区、東京都墨田区、東京都江東区、東京都江戸川区

これまでの開催地

回数	開催地	開催テーマ
第1回	富山県庄川町	川は未来に夢はこぼ
第2回	北海道鶴川町	きらめきリバータウン ー川と人の未来を求めてー
第3回	静岡県大井川町	夢と希望あふれる川づくり ー川は命、未来の子供たちへ引き継ごうー
第4回	兵庫県加古川市	川は友だち ーひと・まち・川・ちょっと素敵な物語
第5回	徳島県那賀川町	未来へ語ろう！私たち川家族
第6回	秋田県雄物川町	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」
第7回	宮崎県北川町	思い出がいっぱい 不思議がいっぱい ー川を彩るホテルの光が子どもたちへの贈り物ー
第8回	愛媛県肱川町	21世紀へのメッセージ ーそれは川から始まるー
第9回	三重県宮川村	川に愛される人になりたい ーちょっと素敵な川家族ー
第10回	兵庫県揖保川町	歴史に学び明日を見つめる川づくり ーともに創ろう川の未来水の未来ー
第11回	東京都江戸川区	暮らしにとけ込む、にぎわいの川 ー都市の中の川を考えるー
第12回	岡山県加茂川町	森と川が伝える ふるさとからのメッセージ ー水は生命の源ー
第13回	奈良県十津川村	みんなで考えよう！河川環境
第14回	兵庫県猪名川町	清流とともに暮らす ～ええやん 猪名川 50年～
第15回	岐阜県揖斐川町	川面に暮らし川とともに生きる
第16回	東京都江戸川区	川の恵みとその脅威

2 「全国川サミットin荒川」開催の意義

平成4年より始まった全国川サミットは、今年で第16回目を迎え、荒川下流域の2市8区が協働で開催されることとなった。

荒川は、甲斐・武蔵・信濃の三国にまたがる甲武信ヶ岳を源に、埼玉県、東京都を下り東京湾にそそぐ大河である。隅田川が分岐する荒川の下流は、明治の頃、未曾有の大洪水に見舞われていた首都東京を守るために開削された放水路で、完成後80年近くにわたり、東京や周辺都市の水害から守り続けている。

今回のサミットの開催は、参加者が荒川下流域を舞台に、川が私たちに与えてくれる豊かな自然環境や水辺空間などの「恵み」と、時として姿を変えて襲ってくる洪水などの「脅威」についてそれぞれの立場から共に考え、その認識を深め、後世に伝えることを目的に開催した。

3 開催目的

(1)川本来の姿を語り合う交流の場として、全国から参加する自治体及び荒川下流域の2市8区 の更なる連携を確立する。

(2)荒川の岩淵水門より下流は、明治から昭和にかけて開削された放水路である。現在、自然の川のように生き物が住み、私たちの生活にとけこみ自然を享受させてくれているのは、先人の 労苦の上に成り立っているということを流域住民とともに再確認する。

(3)荒川の四季折々の自然から受ける「恵み」と洪水などのような「脅威」について認識し、流域住民と行政の様々な取組みの歴史と将来のあるべき姿を共に考え広くアピールする機会とする。

4 テーマ

「川の恵みとその脅威」

II 実施内容

1 「全国川サミットin荒川」に向けた活動

「全国川サミットin荒川」が荒川下流域2市8区の主催により開催されることとなり、それにあわせて、様々な団体が、川に関する事業や研究、その他、日頃の活動の成果の取り纏めを行った。

そして、お客様を迎えるためのウェルカムイベント「太鼓そのいのち」では江戸川区内の小学生を中心に「江戸楽鼓」が、また サミットでのメインイベント 歌と映像で織りなす「荒川物語」では主催の2市8区の皆さん300人による「荒川サミット祝祭合唱団」が結成された。

その他、「荒川に関わる写真コンクール」と題し、四季折々の川辺や荒川で活動されている様子など、「荒川」に関わる写真を広く一般に募集し、金賞3点、銀賞5点の作品を選定した。

(1) 荒川探検隊

夏休みを利用して、多くの青少年に川の素晴らしさを知ってもらうため「荒川探検」を実施した。上流隊・中流隊・下流隊を編成し、参加した子どもたちは、荒川を遊び、学び、自然を体験した。

①上流隊

実施日：7月26日から7月27日の1泊2日

場 所：埼玉県秩父市（二瀬ダム、入川溪谷夕暮キャンプ場）

参加者：20名



二瀬ダム見学



キャンプ体験



入川溪谷での野生体験



ドラムカン風呂入浴

②中流隊

実施日：8月15日～8月16日の1泊2日

場 所：埼玉県長瀨町（長瀨キャンプ村、荒川）、秩父市（浦山ダム）

参加者：23名



出発風景



浦山ダム見学



ラフティング体験

③下流隊

実施日：8月20日、25日 2日間

場 所：東京都北区（荒川知水資料館）、江戸川区（荒川）

参加者：15名



カヌー体験



ドラゴンボート体験

(2) 江戸川区小中高等学校及び自主研究グループによる調査および研究

①大杉小学校

中学年(3・4年生)が、植物、虫、水生生物、鳥、水質、ゴミの6グループに分かれて校外学習「荒川中土手探検」を行い、その成果をパネル発表した。



②小松川第二小学校

荒川の防災と環境について調査・研究を行い、その成果を発表した。

防災:洪水の歴史と荒川放水路の開削。洪水に対する昔から現在の対策について
環境:ゴミ、水質・魚・鳥・植物について

③中小岩小学校

江戸川河川敷の豊かな自然のもと春と秋には「野外給食」、冬には凧揚げ大会を行っている。また、4年生は「自然となかよくしよう」をテーマに江戸川で植物や生き物を観察したり、川の水質調査や岸辺の清掃活動を発表した。

④小松川第一中学校

荒川放水路開削の歴史と荒川・旧中川の今昔や小松川スーパー堤防工事現場の地層断面の調査などをおこない、川との関係から平井・小松川地区について分析し、その成果を発表した。



⑤小松川第三中学校

「荒川の水質」をテーマに・CODの濃度と塩分濃度、・川の微生物を調査し、他の川と比較し水質を分析した。また、荒川の模型づくりを行い、その成果を発表した。



⑥西葛西中学校

4年前から荒川クリーンエイドに参加し、「総合的な学習の時間」に荒川の清掃と動植物の調査をおこない、集めたゴミの量や種類を分析し、どうすればゴミをなくすことができるかを調べ、その成果を発表した。



⑦小松川第二中学校

旧中川の水質・水棲生物・植物について継続した調査を行い、その成果をパネル発表した。



⑧小松川高校

毎年、地元中学校への出前授業を実施している。今年は「荒川・・・中学校から高校の授業へ」と題して、高校での生物実験への取り組みを紹介した。川サミットに合わせ、荒川を題材として中学生に対して実験への取り組みを1時間授業として組み立て、その様子をパネル発表した。

⑨江戸川総合人生大学江戸川学科1期生「ローターズ倶楽部」

荒川放水路開削により移転をよぎなくされた社寺については、該当する区の区史などに記載された一部を除き、記録や資料も少なく、かつ放水路全体の体系的な記録もないことが分かり、川筋に沿って下流から上流に向けて、神社、仏閣、文化財などの新旧所在先などの確認やこぼれ話などを探し求めて、訪ね、巡り歩き、その成果を発表した。



⑩江戸川総合人生大学2期生「江戸川ルネサンス」

全国に261社ある氷川神社は、埼玉に162社、東京に68社あり、特に荒川に多く分布している。

そこで、古い地理情報を江戸幕府によって編まれた武蔵国の地誌「新編武蔵風土記稿」から確認し、電子地図を用いて今昔の分布等を検証し、フィールドワークにより先人たちの生活と氷川神社の係り等を調査し、その成果を発表した。現在も標高といった視点からも鎮座地の傾向を検証するなど更に調査を進めている。



⑪小松川第二小学校、大杉小学校、中央大学水理研究室

地球規模の温暖化や大都市のヒートアイランド現象といった環境問題が深刻化している。そういった中で、高層マンションの間に吹くビル風など、都市に吹く風の効果が注目されている。

そこで荒川の広大な河川空間に吹く風が、沿川の地域にどのように影響しているかを調査、分析し、その成果を発表した。



⑫えどがわく荒川市民会議

区民と行政が一体となり、荒川の将来を良いものにしていくために議論し、様々な意見を述べたり、提言をおこなっており、それが実際に反映された具体例について発表した。

⑬あらかわ学会

多くの人たちに愛される荒川に！をテーマに、荒川の歴史的、そして今日における意義と役割を見つめ直し、荒川(流域)と流域住民との関係のあるべき姿を考えている。

年次大会やセミナーなどを通じて意見交換を深めつつ、自然環境・歴史民俗・写真・美術の4委員会が独自に活動しており、その活動内容について発表した。

また、「荒川両岸まち歩き」(荒川ブックレット)を発行し、荒川沿岸の歴史と文化を紹介した。

⑭ア！安全・快適まちづくり

東京東部の荒川と江戸川の水に囲まれた低地帯を水害から守るために、スーパー堤防整備事業を契機に、この地域が「安全で、みずと緑と安らぎのある東京一番の街」になることを願って、新しい街づくりに関する手法の研究、提言、啓発、支援、指導及び助言を行うことを目的としたボランティア活動をおこなっており、その活動内容について発表した。

2 第16回全国川サミットin荒川

一級河川名を名称とするあるいは一級河川にゆかりのある全国の市区町村の参加を得て平成19年10月26日(金)から10月28日(日)にわたり江戸川区で開催された。

【参加8自治体】

秋田県横手市、群馬県みなかみ町、岐阜県揖斐川町、岐阜県白川町、
兵庫県加古川市、兵庫県猪名川町、奈良県十津川村、東京都荒川区

【主催】

全国川サミット連絡協議会、荒川下流沿川2市8区、
埼玉県戸田市、埼玉県川口市、東京都板橋区、東京都北区、東京都足立区、
東京都荒川区、東京都葛飾区、東京都墨田区、東京都江東区、東京都江戸川区

(1)10月26日(金) (第1日目)

①荒川治水資料館見学および荒川船上視察

荒川治水資料館(アモア)の館内を国土交通省荒川下流河川事務所の岩田所長の説明により見学した。

その後、すぐ横の荒川河川敷のリバーステーションから水上バス「あらかわ号」等に乗船し、船上から荒川下流の状況を視察した。



②全国川サミット連絡協議会総会

葛西臨海公園内にあるホテルシーサイド江戸川を会場に、参加自治体および主催自治体の代表が出席し、全国川サミット連絡協議会総会が開催された。

以下の報告事項および協議事項について全て満場一致で承認された。

◆会長あいさつ 全国川サミット連絡協議会会長 江戸川区長 多田 正見

(あいさつ要旨)

本日は、岩淵水門から葛西臨海公園まで、水上バスで、ご視察いただきまして、また、荒川下流河川事務所長の岩田様にもご説明をいただきまして、たいへん有難うございました。

江戸川区は、荒川と江戸川という二つの大きな川がございまして、たいへん水に縁の深い区でございまして、本当に水との戦いの歴史を数多くもっております。

昨今は下水道も100パーセント完備いたしましたので、日常の水害もなくなり、かなり水に強い区になってまいりました。

しかし、かつて大水害が起きたニューオリンズの地形にたいへん似ており、大洪水が起きないとも限らない、というわけでございまして、国土交通省をはじめ荒川下流事務所の所長さんにいろいろご高配をいただき、より安全な江戸川区を目指しております。

また、荒川流域の自治体は、運命共同体、荒川が暴れたら沿川全部がこれは大変なことになるわけでございまして、これからも力を合わせて強固な河川というものにしていかなければなりません。

この協議会が身のある協議会として、少しでも皆様のお役に立つものになれば幸いですと思っております。どうかよろしく願いいたします。有難うございました。



◆参加状況報告

◆議題

◆報告事項

報告第1号 第15回全国川サミットin揖斐川事業報告について

報告第2号 第16回全国川サミットin揖斐川決算報告について

◆協議事項

協議第1号 第16回全国川サミットin荒川事業計画(案)について

協議第2号 第16回全国川サミットin荒川予算(案)について

協議第3号 第16回全国川サミットin荒川共同宣言文(案)について

協議第4号 今後の全国川サミット開催予定について

※今後の開催予定

第17回(平成20年)群馬県みなかみ市

第18回(平成21年)秋田県横手市

第19回(平成22年)兵庫県加古川市

③ウェルカムイベント「太鼓そのいのち」

タワーホール船堀でウェルカムイベント「太鼓そのいのち」が開催された。
荒川流域とサミット参加自治体の太鼓の団体とプロのミュージシャンによる演奏が披露された。

◆第1部

江戸楽鼓(演奏曲: 凧が流れる景色)

秩父屋台ばやし(演奏曲: 秩父屋台ばやし)

墨水会江戸桜(演奏曲: 飛竜太鼓、飛竜あばれ太鼓)

OMC十津川太鼓倶楽部 鼓魂(演奏: ぶちあわせ太鼓、民謡いものかぶ)

◆第2部

ヨシミツと仲間たちバンド

(演奏曲: まつり歌、風の盆恋唄、未来へ、お祭りマンボ、 天地の詩、紫陽花、
即興演奏～津軽三昧～)



(2)10月27日(土)(第2日目)

第16回全国川サミットin荒川～川の恵みとその脅威～

会場: 江戸川区総合文化センター

参加者: 5000人

①午前の部(小ホール)

中央大学 山田 正 教授の基調講演の後、小中学校及び自主研究グループなど川に係わる団体による研究発表と一般募集で行った「荒川に関わる写真コンクール」の入選作品の表彰式がおこなわれた。

◆荒川のビデオ上映

◆開会宣言 全国川サミット連絡協議会会長 江戸川区長 多田 正見

◆来賓挨拶 国土交通省関東地方整備局 河川部長 柏木 才助 氏

◆基調講演「川の恵みとその脅威」中央大学教授 山田 正 氏

◆研究発表

●発表団体

・えどがわく荒川市民会議

・荒川探検隊(上流隊・中流隊・下流隊)

・小松川第二小学校

・小松川第一中学校

・小松川第三中学校

・西葛西中学校

・荒川の風の道を探る調査研究グループ

(小松川第二小学校、大杉小学校、中央大学水理研究室)

・江戸川総合人生大学 江戸川学科 第1期生 ローターズ倶楽部

・江戸川総合人生大学 国際コミュニティ学科 第2期生 江戸川ルネッサンス

・あらかわ学会

・ア!安全・快適街づくり



- 講評 中央大学教授 山田 正
国土交通省関東地方整備局 河川部長 柏木 才助
全国川サミット連絡協議会会長 江戸川区長 多田 正見



◆荒川に関わる写真コンクール 表彰式



②午後の部(大ホール)

- ◆メインイベント「歌と映像で織りなす荒川物語」第一部
第一部では、江戸川フィルハーモニーオーケストラの演奏とソプラノの独唱に合わせて、荒川で繰り広げられる四季折々の人々や自然の営み、荒川の歴史をスクリーンに表現した「歌と映像で織りなす荒川物語」第一部が行われた。
- ◆自治体紹介、サミット宣言、サミット旗の引渡し
参加・主催自治体 計17自治体の代表が各自自治体の紹介に合わせて登壇し、全員でサミット宣言をおこない、会長の江戸川区長 多田 正見より、次期開催自治体の群馬県みなかみ町へサミット旗が引き渡された。
- ◆メインイベント「歌と映像で織りなす荒川物語」第二部
第二部では、このイベントのために荒川下流域2市8区のみなさんで結成された300人の「荒川祝祭合唱団」が加わった。川とふれあう様々な人たちの映像がスクリーンに映し出され、グランドフィナーレには会場の参加者も一体となって合唱に加わりエンディングを迎えた。



全国川サミット in 荒川

～川の恵みとその脅威～

共同宣言

荒川は、その源を甲斐・武蔵・信濃の三国にまたがる甲武信ヶ岳に発し、奥秩父の渓谷を一気に流れ下り、関東平野の田畑を潤し、あたかも自然な川であるかのように、首都・東京の低地をとうとうと流れ、海へと注いでいます。

「第16回全国川サミット in 荒川」は、昭和初期に放水路として開削された荒川下流のまち・江戸川区に17の市区町村が集い、全国川サミット初となる流域自治体の協働のもと、「川の恵みとその脅威」をテーマに開催いたしました。

豊かな自然環境や広々とした水辺空間に、あるいは、荒ぶる川を治めてきた先人の労苦に深い感謝の念を表すとともに、大河の恵みを後世に引き継ぐことを共に誓い合い、ここに宣言します。

- 1 私たちの暮らしに潤いをもたらす「川の恵み」を守り育て、自然豊かな水辺空間のさらなる創出を図ります。
- 1 先人の労苦と治水の歴史を教訓に、これまでにない大水害の危機に立ち向かう強固な河川整備を推進し、災害に強い安全・安心のまちを築きます。
- 1 すべての人々に、川の恩恵・川の尊さを強くアピールし、川を慈しむ心を次世代に伝承します。
- 1 源流の地から最下流のまちまで、流域に暮らす人々が互いに思いを馳せ、さらなる連携を深める流域協働のまちづくりを推進します。
- 1 川と人の関わり、川とまちの未来を語り合うため、全国の川に関わる人々との友好の輪を広げます。

平成19年10月27日

第16回全国川サミット in 荒川参加者一同
代表 江戸川区長 多田 正見

③展示等

総合文化センターの中央ロビー、大ホールホワイエや展示室等を利用し、各種の展示、体験コーナー、物産品の販売がおこなわれた。

◆大ホールホワイエ
参加・主催自治体の紹介

- ◆展示ホール
- ・あらかわ学会
 - ・国土交通省荒川下流河川事務所
 - ・国土交通省荒川上流河川事務所
 - ・国土交通省二瀬ダム管理所
 - ・国土交通省江戸川河川事務所
 - ・独立行政法人 水資源機構 荒川ダム総合事業所
 - ・千葉県松戸市
 - ・千葉縣市川市
 - ・江戸川区

- ◆中央ロビー
- ・荒川市民会議
 - ・ア！安全・快適街づくり
 - ・荒川の「風の道」を探る調査研究グループ
 - ・江戸川総合人生大学 ローターズ倶楽部
 - ・江戸川総合人生大学 江戸川ルネッサンス
 - ・ふるさと東京を考える実行委員会
 - ・葛西東渚・鳥類園友の会
 - ・江戸川区環境促進事業団
 - ・えどがわエコセンター
 - ・江戸川区ボート協会
 - ・みずとみどりの寺子屋
 - ・下平井水辺の楽校
 - ・荒川クリーンエイドフォーラム
 - ・中土手に自然を戻す市民の会
 - ・東京龍舟
 - ・江戸川カヌークラブ
 - ・物産品販売コーナー

- ◆展示ギャラリー
- 大杉小学校、小松川第二小学校、小松川第一中学校、小松川第三中学校、西葛西中学校、小松川第二中学校、小松川高等学校、写真コンクール優秀作品・応募作品の展示紹介



(3)10月28日(日)(第3日目)

全国川サミットin荒川 記念植樹式

今回のサミットの開催を記念して、江戸川区平井の荒川河川敷で参加自治体および主催自治体さらに地元平井地区連合町会などの方々が、記念樹(えのき)を植樹し、土入れと水やりを行った。



また、第16回全国川サミットin荒川の開催を記念して、参加・主催自治体の記念名板を設置し披露した。

アウトドア・イベント・イン・アラカワ2007

同じく荒川河川敷で「アウトドア・イベント・イン・アラカワ2007」が実施される予定であったが、前日の台風による冠水により、残念ながら中止となった。



Ⅲ 効果等

「第16回全国川サミットin荒川」が10月26日(金)～28日(日)の3日間開催された。今回のサミットには、延べ6,100人の参加をいただき、日頃の荒川を舞台とした活動や調査、研究発表など幅広い内容となった。

このサミットは、荒川下流の沿川2市8区の複数自治体が協働で主催し、川について考え、そして語り合う交流の場として「川の恵みとその脅威」をテーマとした様々な川への取り組みを全国に発信し、主催参加自治体相互の連携をより深めることができた大会であった。

また、子どもたちを対象に「荒川探検隊」を実施し、太鼓演奏グループ「江戸楽鼓」を結成した。探検隊での体験や太鼓の練習、そしてサミットでの発表や演奏を通して、子どもたちが生きいきと逞しく成長する姿を確認することができ、今後の素晴らしい未来に繋がる大きな効果を上げることができた。

そして、今回のサミットでは、主催自治体のみならず、全国から多くの団体の参加があった。

ウェルカムイベント「太鼓そのいのち」では、奈良県十津川村の「鼓魂」、埼玉県秩父市の「屋台囃子」、東京都足立区の「墨水会江戸桜」など川と共に育まれた地域色豊かな太鼓演奏が披露され、さらに、主催自治体2市8区の皆さん300人で「荒川サミット祝祭合唱団」が結成され、式典のフィナーレでサミットのテーマである「川の恵みとその脅威」を表現した合唱「水のいのち」を謳いあげ、参加者の心に残るものとなった。

今後、荒川下流の沿川2市8区は、このサミットで採択された共同宣言を尊重し、自然の「川の恵み」を大いに享受し、協働して「川の脅威」に対して不断の備えを行っていく。

(添付資料)

「第16回全国川サミットin荒川」大会パンフレット